

C B R 柱状図

調査年月日：2020年4月14日

会社名：日本建設舗道株式会社

調査名：SYSTEM21 最高級プロフェッショナル土質調査解析ソフト
 長年の実績で信頼と安定したソフトを実現

調査員：田中 誠二

試料番号No. A-1 測点No. B-1

(1) 調査地点

地盤全体の異常はみうけられないが、下にいくほど砂粒が
 あらくなっている。
 建てられるであろう建築物に対する影響はさほどないだろう
 と予測されるが、地盤固化剤の添加も考えられる。

$$CBR = \left(\frac{40 \times 30^{1/3} + 60 \times 70^{1/3} + 20 \times 40^{1/3}}{100} \right)^3 = 85.16\%$$

(2) 柱状図

最終深度 4.60m 標高 3.8m 地下水位 3.7m

深度 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質名	色調	特記事項
0.60	0.60		礫まじりシルト	白	埋土、下層含水多く
1.40	1.40		粘土	青緑灰	含水多く締め弱し
1.90	1.90		シルトまじり礫	黒	水分を多く含む層である
2.75	0.85		シルト質礫	黒灰	堆積火山灰
3.72	0.97		粘土質礫	暗灰	含水多く締め弱し
4.60	0.88		シルトまじり細粒分質礫	黒	含水を多く含む層である

試料番号No. A-2 測点No. B-2

(1) 調査地点

礫混じり砂の層の礫は、中石器時代の玄武岩と安山岩の風化
 砕裂化してできたものでかなりの強度は保てる。
 砂に関しては、河岸段丘の堆積物ではないだろうかと思われる
 が意外と粒が不均一であるのが特徴である。

$$CBR = \left(\frac{25.00 \times 30^{1/3} + 24.52 \times 70^{1/3} + 30.56 \times 40^{1/3} + 10.57 \times 30^{1/3} + 12.63 \times 37.52^{1/3}}{100} \right)^3 = 46.33\%$$

(2) 柱状図

最終深度 5.00m 標高 10.5m 地下水位 GL-3.7m

深度 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質名	色調	特記事項
1.52	1.52		礫	白	含水多く下部レキ混り
2.63	1.11		シルトまじり礫	黒	水分を多く含む層である
3.58	0.95		細粒分質礫	茶灰	埋土、下層含水多く
4.20	0.62		シルト質礫	黒灰	堆積火山灰
5.00	0.80		粘土質礫	暗灰	含水多く締め弱し

試料番号No. A-3 測点No. B-3

(1) 調査地点

中央の土壌は、粘性に富むシルト混じり粘土の層が広がり
 端にいくほど、火山灰質の土壌となっている。
 総合的に考えて、建築物の地耐力の面から若干の不安は残る
 P R B型セメント添加物の注入が妥当と考えらる。

$$CBR = \left(\frac{100 \times 30^{1/3}}{100} \right)^3 = 30.00\%$$

(2) 柱状図

最終深度 4.70m 標高 12.6m 地下水位 GL-2.60m

深度 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質名	色調	特記事項
1.20	1.20		砂まじり礫質粘土	黒灰	含水多く締め弱し
3.50	2.30		砂まじり礫質シルト	茶灰	含水多く下部レキ混り
4.70	1.20		砂まじり礫質シルト	茶灰	含水多く下部レキ混り

C B R 試料採取 ● 現状土 ○ 変状土